



2024年11月8日

各 位

会 社 名 ヤマウホールディングス株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 有 田 徹 也
(コード番号:5284 東証スタンダード)
問 合 せ 先
役職・氏名 取 締 役 倉 智 清 敬
経 営 管 理 部 長
電 話 092-872-3301

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、中長期的な企業価値の向上に向けて、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、別紙資料をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

- 資本収益性改善は、当社経営上の重要課題であると認識しており、現中期経営計画Plan C³(2025年3月期～2027年3月期)ではROIC10%以上を目指すこととしております。
- 当社のPBRは現在1倍程度で推移しておりますが、これを改善していくためには、これまで取組んでまいりました既存事業の収益性向上の取組みを継続して実行していくとともに、資本市場の皆様との対話を通じて、当社の取組みの内容を十分にご理解いただけるよう努めてまいります。

現状認識

■ 資本収益性の改善は経営上の重要課題と認識

- ・現中期経営計画Plan C³において、2027年3月期の数値目標として、営業利益2,750百万円 営業利益率12.5% ROIC10%以上を目標に掲げ開示(2024年3月29日開示)
- ・当社のPBRは、現在1倍程度の水準で推移しておりますが、企業価値向上に向けて、資本コストを意識し資本収益性の向上に努める必要があり、経営上の重要課題として認識

方針

■ 現中期経営計画Plan C³における各施策の取組みや、資本市場との建設的な対話に真摯に取り組む等、資本コスト及び収益性を意識した経営を推進

具体的な取組み

■ 収益力強化

- ・既存事業の底固めと更なるシェアアップ(セグメント別に重点注力分野を定め深耕)
- ・新たな成長機会獲得への種蒔きと戦略的な技術開発テーマの推進
- ・人材不足の時代に合わせた体制転換(アナログ的業務の効率化推進、機械化・省人化への挑戦、多様な人材を活かせる環境整備)

■ 投下資本の有効活用

- ・ROICを基準とした収益力強化と資産効率向上に資する投資判断の実施

■ IR活動強化

- ・株主及び投資家との対話の量を高めるとともに、適切かつタイムリーな情報開示の実施

■ 株主還元方針

- ・財務の健全性を前提とし、連結配当性向30%程度を目安に業績に応じた還元を実施する(2023年2月変更)

直近5年間の業績推移

決算年月	第63期 2020年3月期	第64期 2021年3月期	第65期 2022年3月期	第66期 2023年3月期	第67期 2024年3月期
売上高 (百万円)	23,089	26,711	19,503	18,509	19,745
営業利益 (百万円)	1,142	1,874	2,228	1,997	2,582
営業利益率 (%)	4.9	7.0	11.4	10.8	13.1
当期純利益 (百万円)	732	1,243	1,526	1,324	1,737
純資産額 (百万円)	5,762	6,987	8,223	9,148	10,691
ROIC (%)	5.1	9.7	12.0	9.2	12.0
PBR (倍)	0.36	0.51	0.51	0.70	1.12
株価 (円)	337	580	676	1,031	1,937
株価収益率 (倍)	2.82	2.86	2.71	4.76	6.82

* 2022年3月期より新収益認識基準を適用しております

* 株価は各期とも期末日時点です

以 上